

商業の動き

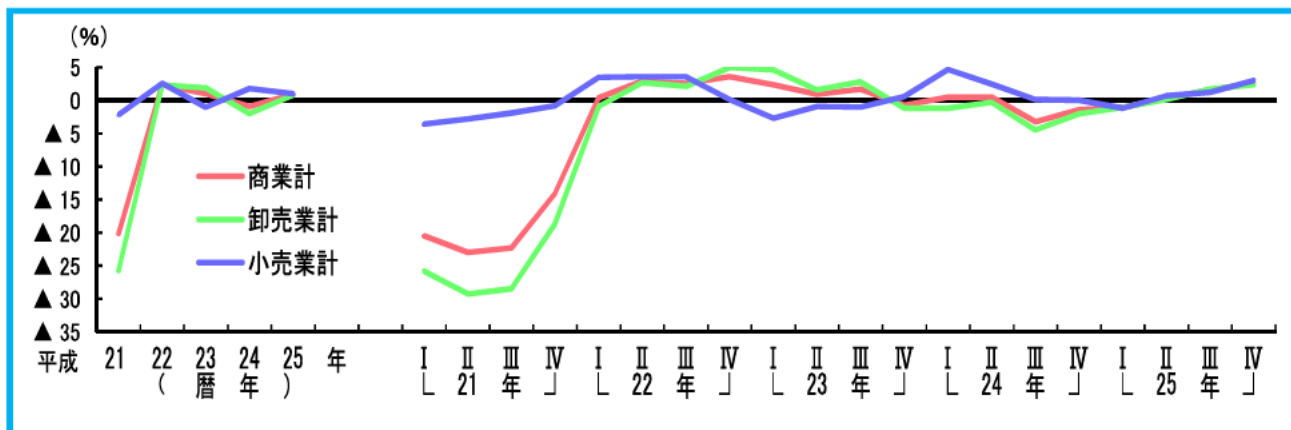
第 1 6 9 号
平成 26 年 3 月
経済産業省大臣官房
調査統計グループ

平成25年の商業販売額は、前年比 0.9%と2年ぶりの増加となりました。卸売業は同0.8%と2年ぶりの増加、小売業は同1.0%と2年連続の増加となりました。(第1図)



毎月のご協力ありがとうございます。

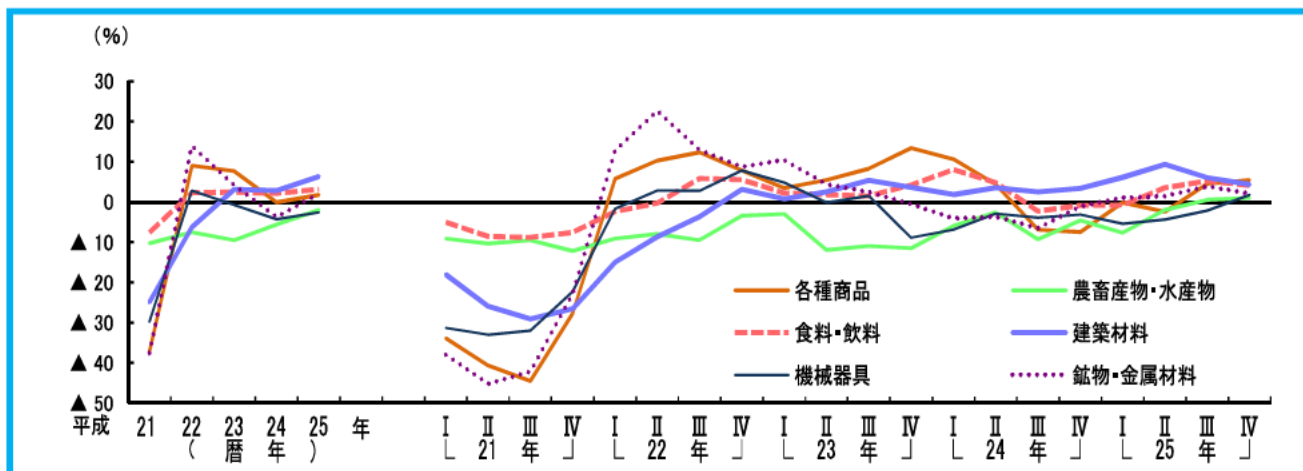
第1図 商業販売額の推移(前年(同期)比)



○卸売業販売額の動向○

平成25年の卸売業販売額をみますと、食料・飲料卸売業は、小売業向けの好調や食料品の価格上昇などにより増加、鉱物・金属材料卸売業は、石油製品の輸出増や石油・石炭製品の価格上昇などにより増加、建築材料卸売業は、建築需要増や木材の輸入増並びに製材・木製品の価格上昇などにより増加となりました。一方、機械器具卸売業は、電気機械器具が薄型テレビの国内向けの不振などにより減少、一般機械器具が金属加工機械や建設用・鉱山用機械の輸出減などにより減少、その他の機械器具が医療用及び精密機械器具等の取扱い減などにより減少、自動車及び自動車部品の国内向けの取扱い減などにより減少となりました。また、農畜産物・水産物卸売業は、天候不順による野菜や水産物等の取扱い減などにより減少となりました。(第2図)

第2図 主要卸売業販売額の推移(前年(同期)比)



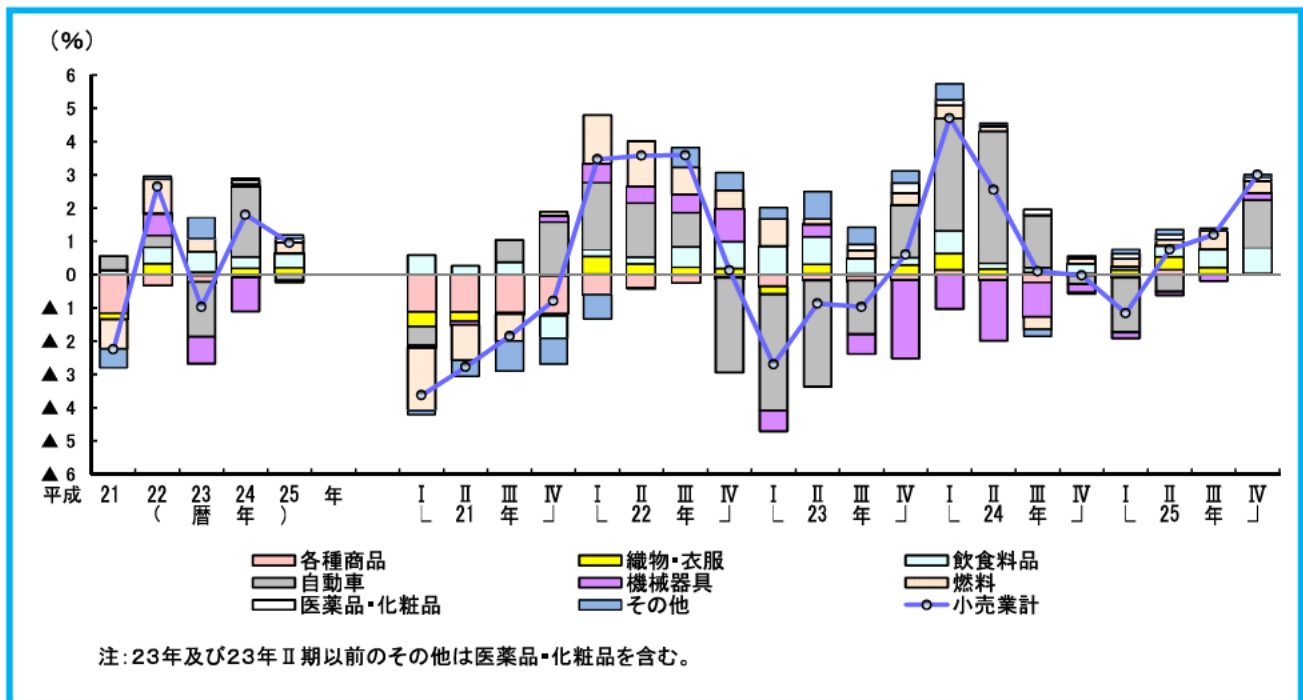
☆☆大規模卸売業の動向☆☆

平成25年の大規模卸売店の販売額は、化学製品が有機化合物などの輸出増により増加、自動車国内向けや輸出入の好調などにより増加、食料・飲料が清涼飲料水や冷凍食品、缶詰などが国内向けの好調により増加、その他の商品がゲーム機の輸出増や肥料・飼料の価格上昇による増加などから、前年比 1.8%と3年ぶりの増加となりました。

○小売業販売額の動向○

平成25年の小売業販売額をみますと、飲食料品小売業は野菜の相場高などにより増加、燃料小売業は石油製品価格の上昇などにより増加、織物・衣服・身の回り品小売業は季節商材が好調だったことなどにより増加となりました。一方、自動車小売業は前年のエコカー補助金制度終了の影響などにより減少、機械器具小売業は薄型テレビなどの不調により減少となりました。(第3図)

第3図 小売業業種別寄与度の推移(前年(同期)比)



☆☆業種別の動向☆☆



- ①各種商品小売業(百貨店など)は、高額商品や身の回り品などに動きがみられたことなどにより、前年比 0.2%と18年ぶりに増加となりました。
- ②織物・衣服・身の回り品小売業は、初夏から夏にかけての高温により、季節商材が好調だったことなどにより、前年比 2.2%と4年連続の増加となりました。
- ③飲食料品小売業は、野菜などの相場高や、春先からの気温上昇に伴い、涼味商材の動きが早めにみられたことに加え、コンビニエンスストアの好調などにより、前年比 1.3%と7年連続の増加となりました。

④自動車小売業は、新型車効果により普通車、軽自動車は一部好調だったものの、エコカー補助金制度終了の影響などにより、前年比▲1.4%と2年ぶりの減少となりました。

⑤機械器具小売業は、エアコン、冷蔵庫などに動きがみられたものの、薄型テレビ、BDレコーダーなどの不調により、前年比▲1.3%と3年連続の減少となりました。

⑥燃料小売業は、ガソリンなどの石油製品価格の上昇などにより、前年比 3.4%と4年連続の増加となりました。

⑦ 医薬品・化粧品小売業は、ドラッグストアの堅調などにより、前年比 1.9%と2年連続の増加となりました。

⑧ その他小売業は、DIY素材・用品などに動きがみられたことなどにより、前年比 0.6%と2年連続の増加となりました。

○大型小売店の動向○

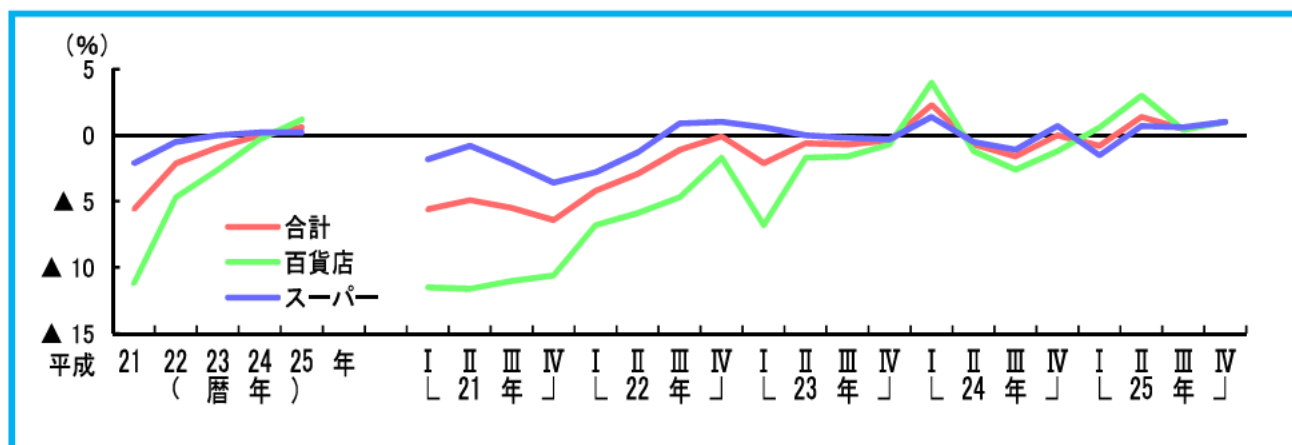
平成25年の大型小売店の販売額は、前年比 0.6%と6年ぶりの増加となりました。

業態別にみますと、百貨店は、高額商品や身の回り品などに動きがみられたことなどにより増加、スーパーは、新店効果に加え、野菜の相場高や畜産品、惣菜が堅調だったことなどにより増加となりました。なお、大型小売店販売を既存店ベースでみると、同▲0.4%と22年連続の減少となりました。

(第4図)



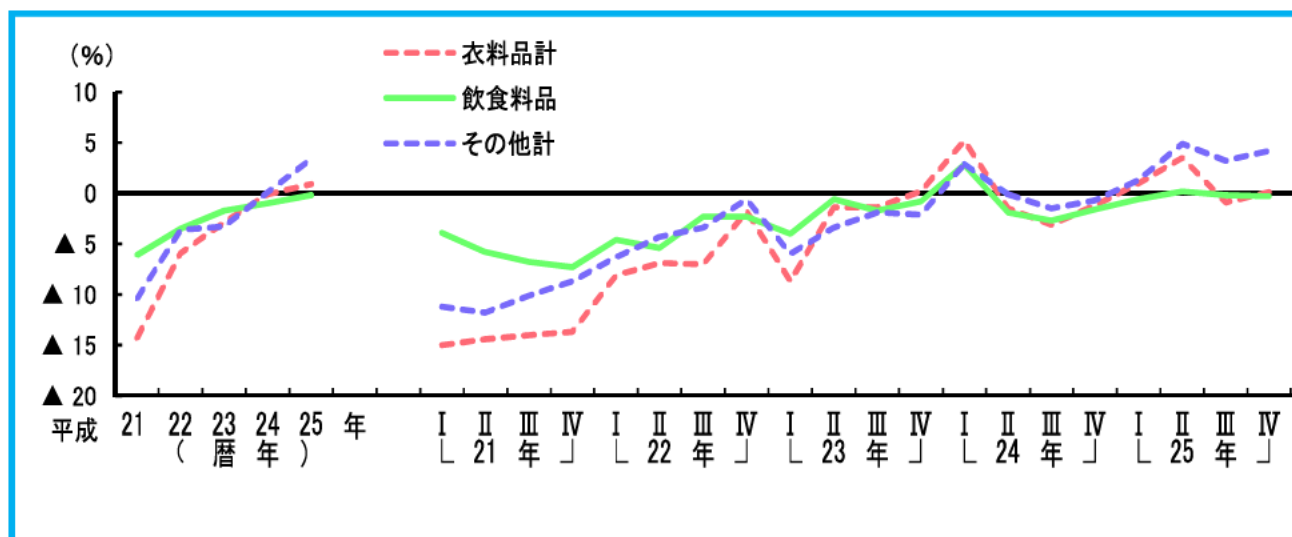
第4図 大型小売店(百貨店、スーパー)販売額の推移(前年(同期)比)



① 百貨店

百貨店は、天候不順の影響や閉店の影響があったものの、時計や宝飾品などの高額商品やバックなどの身の回り品に動きがみられたことなどにより、前年比 1.2%と16年ぶりの増加となりました。なお、既存店ベースでみると、同 1.8%と2年連続の増加となりました。(第5図)

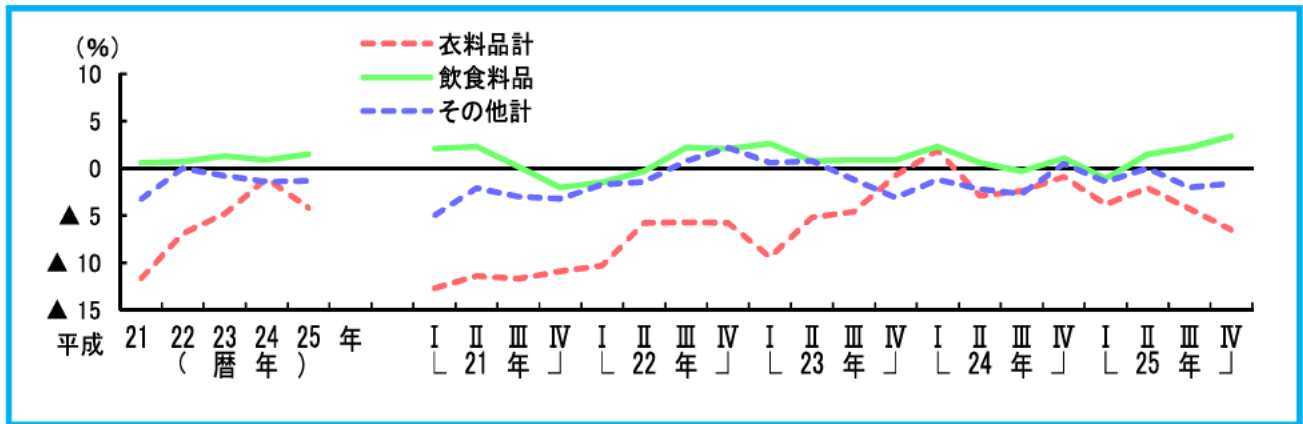
第5図 百貨店販売額の推移(前年(同期)比)



② スーパー

スーパーは、天候不順の影響などから、衣料品全般で低調だったものの、新店効果に加え、年央以降の野菜の相場高や畜産品、惣菜が堅調だったことなどにより、前年比0.2%と3年連続の増加となりました。なお、既存店ベースでみると、同▲1.5%と22年連続の減少となりました。(第6図)

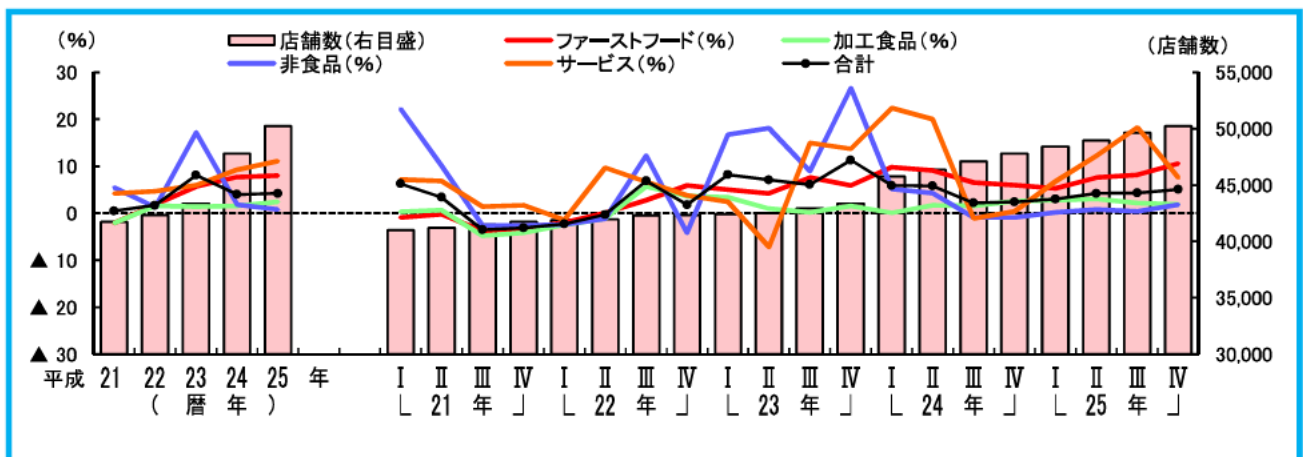
第6図 スーパー販売額の推移(前年(同期)比)



○コンビニエンスストアの動向○

平成25年のコンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高の合計は、ファーストフード及び日配食品の好調などにより、前年比4.2%と15年連続の増加となりました。商品別に見ると、ファーストフード及び日配食品は、おにぎり、ファーストフード、コーヒー、生鮮食品、惣菜などが好調だったことにより、同8.0%と4年連続の増加となりました。加工食品は、猛暑によりソフトドリンクやアイスクリームなどが好調だったことなどから、同2.4%と4年連続の増加となりました。非食品は、たばこが不調だったものの、日用品が増加したことなどにより、同0.8%と15年連続の増加となりました。サービス売上高は、各種チケットなどの取扱い増やゲーム用プリペイドカードの好調により、同11.1%と7年連続の増加となりました。なお、既存店ベースでみると、合計で同▲1.2%と2年連続の減少となりました。(第7図)

第7図 コンビニエンスストアの店舗数と販売額の推移(前年(同期)比)



統計調査にご協力いただきましてありがとうございます。「商業の動き」は各種統計調査の結果とともに、下記のホームページでご覧いただけます。「商業の動き」の送付については、原則年1回(毎年3月末)とさせていただきますのでよろしくお願いたします。また、この資料の内容についてご質問等がございましたら、
 経済産業省大臣官房調査統計グループサービス動態統計室商業動態統計班
 (電話03-3501-1511(大代表)内線2898~2899)までご連絡ください。

経済産業省統計ホームページ
<http://www.meti.go.jp/statistics/index.html>



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。